

ホタルやトンボなど 久米島の昆虫の殿堂

久米島ホタル館

ホタルの保護・観察を目的として開館したが、ホタルだけでなく、島に生息するあらゆる生き物の情報発信基地となっている。絶滅が危惧されている種類を、自然を模した水槽を使って展示した1階スペースは、見応え十分。また敷地内には、小川のせせらぎを利用して作られた湿地があり、琉球列島固有の虫たちも観察できる。

☎098-896-7100 ☎9:30～16:30
 火曜 ☎大人100円、子ども50円、推選ガイドによるホタル観察会(詳しくは予約時にお問い合わせを) / 1人500円

1993年に発見されたクメジマボタルは久米島だけの固有種
 (Photo by Fumiko Koshimoto)



「久米島ホタル館」の周辺で見かけた
 たち 4ブルーの目玉が美しいコ
 プトンボ 5洗いや物柄のような
 を持つインシゲケチョウ 6リュウキ
 ヲベニイトンボの結婚シーン 7
 面の水分を吸うリュウキウミスジ
 (Photo by Fumiko Koshimoto)



久米島の貴重な 生き物とふれあう。

海から山までバラエティに富んだ自然を持つ久米島には、
 さまざまな生き物が生息しています。その中には絶滅の危機にある種も……。
 自然からの大切なメッセージを伝える、二つの施設を訪ねました。

奥武島の「久米島ウミガメ館」は、夏休みにぜひ親子で訪れてほしい施設。乱獲されたり、ビニールなどの漂流物を飲み込んで死ぬウミガメが、世界中で後を絶たない。そんなウミガメの現状を知ってほしいと、館内で人工孵化した子ガメに認識票を付け、海に放流する「親子ウミガメ教室」が毎年、夏休みに行われるのだ。「どの子も。ガンバレ」。元気に海で生きてね。などと叫びながら、姿が見えなくなるまでウミガメを見送るんですよ」と、山崎館長は感慨深そうに語る。

いっぽう、島の西部にある「久米島ホタル館」ではホタル観察会を実施。久米島は地球上でここにしかない、クメジマボタル(4月上旬～5月上旬に出現)が生息する島だが、夏休みでもホタルと出合えるのだろうか？

「それならご安心を(笑)。久米島には夏でも光る、オキナワスジボタルというホタルがいるんです」とは、佐藤館長の言葉。「ホタルが飛ぶ豊かな自然環境を守りたい」と保護活動にいそしむ、ボランティアスタッフたちの熱い想いを受け止めながら、幻想的な光の舞いを楽しむ夜のひときは、子どもたちにとって、忘れがたい夏休みの思い出となるに違いない。



ウミガメ体験放流を 夏休みの思い出に

久米島ウミガメ館

世界で初めて、屋内でアオウミガメの産卵・孵化に成功した、ウミガメの研究・展示施設。館内で上映される三面スクリーンは必見。絶滅の危機にあるウミガメの現状に胸を打たれる。5月の大型連休や夏休みの日曜に実施される「親子ウミガメ教室&体験放流」は先着順なので、希望者は早めの電話予約を。

☎098-985-7513 ☎9:00～17:00
 (入館は16:30まで) ☎火曜 ☎大人300円、小・中学生および高校生200円、ウミガメ教室&体験放流(要予約) / 大人700円、小人500円

1 間近に見る巨大なウミガメの姿に圧倒される 2 海辺に佇む「久米島ウミガメ館」 3 館内ロビーには、久米島の貝類の展示も

